

人権資料・展示全国ネットワークニュース

発行：人権資料・展示全国ネットワーク事務局
(公益財団法人 滋賀県人権センター)
(草津市立人権センター)

2024年10月10日（木）に、滋賀県草津市にあるキラリ工草津を会場として、人権資料・展示全国ネットワーク第29回総会を開催し、全国より20団体、30名に参加いただきました。



《1日目》

○第29回（2024年度）総会



萱野代表



一浦所長

開会にあたり、人権資料・展示全国ネットワーク代表である、萱野茂二風谷アイヌ資料館の萱野志朗館長と、開催館である、草津市立人権センターの一浦暁美所長より挨拶がありました。

総会では、2023年度事業報告・決算報告、2024年度事業計画（案）・予算（案）、2024年度の事務局体制および次期開催地等について協議を行い、続いて加盟館・施設からの報告を行いました。

• 2023年度事業報告

- (1) 「人権資料・展示全国ネットワーク」ニュースの発行
 - 第61号発行（総会報告・加盟団体の2023年度事業の紹介）
 - (2) ホームページの運営・更新（担当：柳原銀行記念資料館）
 - (3) 事務局会議

○第1回事務局会議（於：旭川市）2023年10月12日

○第2回以降 電話またはメールにて連絡

- #### (4) 文化庁支援事業への参加について

中核館である水平社博物館においては、2023年度も前年

平社創立100周年にかかわって来館者数

- おり、館の業務を円滑に遂行しなが

なっている。そのため、2023年度も参加を見送った。
「人権資料」展示会開催の件について

「人権資料・展示全国ネットワーク」のリーフレット作成
・4年度事業計画

• 2024 年反爭議圖

- (1) 「人権資料・展示全国ネットワーク」ニュースの発行
第62号発行（総会報告・各加盟団体の2024年度事業の紹介）

- (2) ホームページの運営・更新（担当：柳原銀行記念資料館）
- (3) 「人権資料・展示全国ネットワーク」のデータ保存について
- (4) 2024年度以降の文化庁支援事業への参加について

中核館である水平社博物館がその業務を円滑に遂行しながら新規事業に取り組むことは現状では非常に困難な状況となっていることから、2024年度も参加を見送る。また次年度以降についても現時点で参加することは非常に困難であることが予想されるため、未定である。

- ・2024年度 人権資料・展示全国ネットワーク 代表・事務局体制
代 表：公益財団法人 滋賀県人権センター 館長 西村 実
事務局：滋賀県 公益財団法人 滋賀県人権センター
草津市立人権センター
三重県 三重県人権センター

次期総会開催地：三重県



○基調講演「滋賀の歴史の中で忘れられていた大切なこと

～天保一揆 そして 滋賀県水平社～」

講師：郷土史家 武田 一夫氏

滋賀県甲賀市に端を発した2つの出来事である、天保一揆と滋賀県水平社について講演いただきました。

参加者からは、次のような感想が寄せられました。

- ・滋賀県の水平社の歴史について、多く学ぶ事ができた。天保一揆の歴史から差別の厳しさやそれに立ち向かった民衆のたくましさがよくわかった。これから差別をどうなくしていくのか考えさせられた。



武田 一夫氏

- ・滋賀県のことについて学ぶ機会がなかったので勉強になりました。最後に先生が、新聞の記事になった少年少女のさけびが未だ実現されていないと言われたのはその通りだと思いました。部落差別だけでなく、多くの差別が次の世代にないようにできることをしたいと思います。
- ・「差別はもう無くなった」と未だに言われていることに憤りを感じます。やはり知ること、学び続けることは大切であると改めて感じさせられました。不勉強で申し訳ありませんが、本日のご講演ではじめて知ることがすごく多かったです。ぜひ職場でも共有させていただきたいです。

« 2日目 »

前半は1日目の武田氏による滋賀県水平社の講演を受けて、『栗東市立ひだまりの家』にてフィールドワークを、後半は大陸からの「渡来」をテーマにした全国でも珍しい展示施設である『渡来人歴史館』を訪ねました。

○栗東市立ひだまりの家

永福所長からは、ひだまりの家の紹介と美里地区における同和対策事業の流れの説明を、また井之口指導員からは部落差別の現実と十里まちづくりについての想いとそれに関わるエピソード等をお話いただきました。その後『「浸水のまち」から「親水のまち」へ』をスローガンに作られたまちを3つのグループに分かれて、フィールドワークをさせていただきました。



参加者からは、次のような感想が寄せられました。

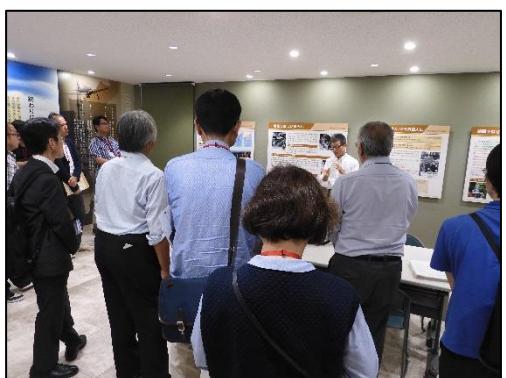
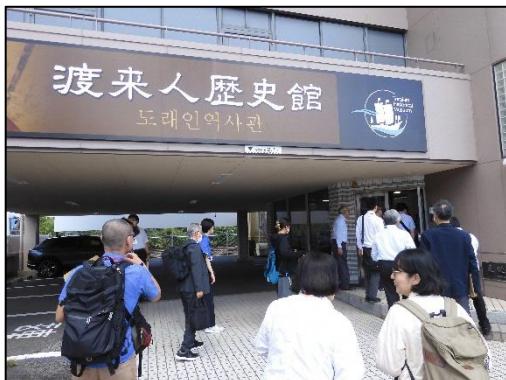


- ・現場を見し、地元で苦労を重ねてこられた方、行政の担当者、双方が力をあわせて事業を進めてこられたこと、双方からお話を伺えたことは有意義であった。

- ・講話で伺った住宅地区改良のあり方がフィールドワークで大変よくわかりました。現地を歩いてみてはじめてわかることが多いです。

- ・実際に高低差を見てることができてよかったです。国に声をあげた方の実体験のお話は時間が足りないくらい貴重でした。

○渡来人歴史館



2006年に日本と朝鮮半島の歴史を学ぶ施設として開設され、3年前にリニューアルオープンした施設です。渡来人とは縄文後期から古墳時代にわたってきた人のことをさしますが、ここでは植民地時代にわたってきた人たちも渡来人と捉え展示しています。今回は歴史館に勤務されている大澤専門員に、日本と朝鮮半島の歴史を時代背景も交えながら展示の解説をいただきました。

参加者からは、次のような感想が寄せられました。

- ・当館の開設の趣旨をつぶさにお話いただき、人権との観点から『渡来』を捉えるというコンセプトに共感できました。
- ・在日コリアンについては表面的なことしか知らず、歴史をたどって説明していただけたので、知識のない私でも理解しやすく大変学びになりました。
- ・展示物からだけでは伝わらない熱いものが大澤さんから伝わってきて知識が深まりました。



事務局より

1日目は滋賀県草津市を会場として、第29回総会並びに基調講演、更に情報交換会を行いました。また、2日目は栗東市と大津市の施設を訪ねての研修を実施しましたが、いかがでしたでしょうか？バスの移動では、日本最大の湖である琵琶湖や比良比叡の山々も少しご覧いただけたことと思います。これを機会に、また滋賀県にお越しいただければ幸いです。

さて、第30回総会等は、2025年11月27日（木）、28日（金）に三重県人権センターで開催いたします。皆様とお会いできることを楽しみにしておりますので、次年度も引き続きよろしくお願ひいたします。